



## データ層を変更します Virtual Desktop Service

NetApp  
July 19, 2022

# 目次

ストレージプラットフォームをリダイレクトしています .....	1
概要 .....	1
ストレージプラットフォームを Azure ファイルにリダイレクトしています .....	3

# ストレージプラットフォームをリダイレクトしています

## 概要

仮想デスクトップサービスの導入テクノロジーでは、基盤となるインフラに応じてさまざまなストレージオプションを選択できます。このガイドでは、導入後に変更を行う方法について説明します。

仮想デスクトップのパフォーマンスはさまざまな主要リソースに左右され、ストレージパフォーマンスは主要な要因の 1 つです。要件の変化やワークロードの進化に伴い、ストレージインフラの変更は一般的なタスクです。ほとんどの場合、このテクノロジーはエンドユーザコンピューティング環境に最適なパフォーマンスプロファイルを提供するため、ファイルサーバプラットフォームからネットアップのストレージテクノロジー（Cloud Volumes ONTAP、Google での NetApp Cloud Volumes Service、AWS での NetApp Azure NetApp Files など）への移行が含まれます。

## 新しいストレージレイヤを作成します

このガイドでは、クラウドおよび HCI のさまざまなインフラプロバイダにわたってストレージサービスを提供する可能性が高いため、すでに新しいストレージサービスが確立されており、SMB パスが既知であることを前提としています。

## ストレージフォルダを作成します

1. 新しいストレージサービスで、次の 3 つのフォルダを作成します。

- データ
- ホーム
- /pro

[]

2. フォルダ権限を設定します

a. [ フォルダのプロパティ ] で、[ セキュリティ ]、[ 詳細設定 ]、[ 継承の無効化 ] の順に選択します

[]

b. 残りの設定は、導入の自動化で作成された元のストレージレイヤの設定に合わせて調整します。

## データを移動中

ディレクトリ、データ、ファイル、およびセキュリティ設定は、さまざまな方法で移動できます。次の Robocopy 構文は、必要な変更を達成します。パスは環境に合わせて変更する必要があります。

```
robocopy c:\data\zucd \\uyy-1c37.deskapps.mobi\zucd-data /xd ~snapshot  
/MIR /CopyAll /R:1 /W:1 /tee /log:C:\temp\roboitD.txt
```

## カットオーバー時の **SMB** パスのリダイレクト

カットオーバーに時間がかかると、VDS 環境全体ですべてのストレージ機能がリダイレクトされます。

### GPOs を更新します

1. Users GPO ( named\_ <company-code>-Users\_ ) は、新しい共有パスで更新する必要があります。ユーザー設定 > Windows 設定 > 環境設定 > ドライブマップ\_ を選択します  
  
[]
2. [H\_H:] を右クリックし、[ プロパティ ( Properties ) ]>[ 編集 ( Edit ) ]>[ アクション ( Action ) ] : [ 置換 ( Replace\_ ) ] を選択して、新しいパスを入力する  
  
[]
3. クラシック AD またはハイブリッド AD を使用して、企業 OU の ADUC で定義されている共有を更新します。これは VDS フォルダ管理に反映されます。  
  
[]

### FSLogix プロファイルパスを更新します

1. 元のファイルサーバおよび他のプロビジョニングされたセッションホストで Regedit を開きます。



必要に応じて、GPO ポリシーを使用して設定することもできます。

2. 新しい値で *VHDLocations\_value* を編集します。次のスクリーンショットに示すように '新しい SMB パス' は *plus\_pro/profileconiners* になります

[]

### ホームディレクトリのフォルダリダイレクト設定を更新します

1. グループポリシー管理を開き、DC= ドメイン、DC=mobi/Cloud Workspace/Cloud Workspace Companies / <company-code>/< company-code> - デスクトップユーザーにリンクされたユーザー GPO を選択します。
2. [ ユーザー設定 ]>[ ポリシー ]> [Windows の設定 ]>[ フォルダリダイレクト ] で、フォルダリダイレクトパスを編集します。
3. 更新が必要なのはデスクトップとドキュメントのみで、ホームボリュームの新しい SMB パスマウントポイントとパスが一致している必要があります。

[]

### コマンドセンターで **VDS SQL** データベースを更新します

CWMGR1 には、VDS データベースを一括更新できる Command Center というヘルパーユーティリティアプリケーションが含まれています。

最終的なデータベース更新を行うには、次の手順を実行

1. CWMGR1 に接続し、CommandCenter.exe に移動して実行します

□

2. [Operations] タブに移動し、[Load Data] をクリックして [Company Code] ドロップダウンに値を入力し、会社コードを選択して、ストレージレイヤの新しいストレージパスを入力し、[\_Execute Command] をクリックします。

□

## ストレージプラットフォームを **Azure** ファイルにリダイレクトしています

### 概要

仮想デスクトップサービスの導入テクノロジーを使用すると、基盤となるインフラに応じてさまざまなストレージオプションを選択できます。このガイドでは、Azure Files の導入後の使用方法を変更する方法について説明します。

### 前提条件

- AD Connect がインストールされ、設定されている
- Azure グローバル管理者アカウント
- AZFilesHybrid PowerShell モジュールです <https://github.com/Azure-Samples/azure-files-samples/releases>
- AZ PowerShell モジュール
- ActiveDirectory PowerShell モジュール

### 新しいストレージレイヤを作成します

1. グローバル管理者アカウントで Azure にログインします
2. ワークスペースと同じ場所に新しいストレージアカウントを作成し、リソースグループを作成します

□

3. ストレージアカウントの下に、データ共有、ホームファイル、およびプロファイル共有を作成します

□

### Active Directory をセットアップします

1. Cloud Workspace > Cloud Worksapce Service Accounts OU の下に、「"S storage Account"」という名前の新しい組織ユニットを作成します

□

2. AD DS 認証を有効にする（PowerShell を使用して実行する必要があります） <https://docs.microsoft.com/en-us/azure/storage/files/storage-files-identity-ad-ds-enable>

- a. DomainAccountType は「ServiceLogonAccount」にする必要があります。
- b. OrganizationalUnitDistinguishedName は、前の手順で作成した OU の識別名です（「OU = ストレージアカウント、OU = クラウドワークスペース、OU = クラウドワークスペース、DC = TrainingKrisG、DC = onmicrosoft、DC = com`」など）。

#### 共有の役割を設定します

1. Azure ポータルで、CloudWorkspaceSVC および Level3 テクニシャンに「ストレージファイルデータ SMB 共有昇格寄与者」の役割を付与します

[]

2. 「Storage File Data SMB Share Contributor」ロールを「<company code> - All Users」グループに割り当てます

[]

#### ディレクトリを作成します

1. 会社コードを名前として使用して、各共有内にディレクトリを作成します（この例では、会社コードは「kift」です）。

[]

2. Pro 共有の <会社コード> ディレクトリに「ProfileContainers」ディレクトリを作成します

[]

#### NTFS 権限を設定します

1. 共有に接続します

- a. Azure ポータルのストレージアカウントの下にある共有に移動し、3 つのドットをクリックして、[接続] をクリックします

[]

- b. 認証方法として Active Directory を選択し、コードの右下隅にあるクリップボードにコピーアイコンをクリックします

[]

- c. Level3 Technician グループのメンバーであるアカウントを使用して、CWMGR1 サーバにログインします

- d. PowerShell で、コピーしたコードを実行してドライブをマッピングします

- e. 共有ごとに同じドライブレターを選択し、共有ごとに同じドライブレターを設定します

2. <company code> ディレクトリの継承を無効にします

3. システムおよび AD グループの ClientDHPAccess では、<company code> ディレクトリへのフルコントロールが必要です

4. ドメインコンピュータは、Pro 共有内の <会社コード> ディレクトリ、および内の ProfileContainers ディレクトリに対するフルコントロールを持っている必要があります
5. <company code> -all users AD グループには、ホーム共有および Pro 共有内の <company code> ディレクトリへの List フォルダ / read データアクセス権が必要です
6. <company code> - すべてのユーザー AD グループは、データ共有内のディレクトリに対する以下の特別な権限を持っている必要があります

[]

7. <company code> - すべてのユーザ AD グループは、ProfileContainers ディレクトリの Modify 権限を持っている必要があります

#### グループポリシーオブジェクトを更新します

1. Cloud Workspace > Cloud Workspace Companies > <会社コード>><company code> - デスクトップユーザーの下にある GPO <会社コード> ユーザーを更新します

- a. 新しいホーム共有を指すようにホームドライブマッピングを変更します

[]

- b. デスクトップとドキュメントのホーム共有を指すようにフォルダリダイレクトを変更します

[]

[]

#### Active Directory のユーザとコンピュータで共有を更新します

1. クラシック AD またはハイブリッド AD では、会社コード OU 内の共有を新しい場所に更新する必要があります

[]

#### VDS でデータ / ホーム /Pro パスを更新します

1. Level3 Technician グループのアカウントで CWMGR1 にログインし、コマンドセンターを起動します
2. [ コマンド ] ドロップダウンで、[ データ / ホーム /Pro フォルダの変更 ] を選択します
3. [Load Data] ボタンをクリックし、ドロップダウンから適切な会社コードが選択されていることを確認します
4. データ、ホーム、およびプロの場所の新しいパターンを入力します
5. [Is Windows Server] ボックスをオフにします
6. コマンドを実行ボタンをクリックします

[]

## FSLogix プロファイルパスを更新します

1. セッションホストでレジストリー時的に開きます
2. HKLM\SOFTWARE\FSLogix\Profiles の VHDLocations エントリを編集して、新しい ProfileContainers ディレクトリへの UNC パスにします

□

## バックアップを設定します

1. 新しい共有のバックアップポリシーを設定して設定することを推奨します
2. 同じリソースグループに新しいリカバリサービスボルトを作成します
3. ボルトに移動し、はじめに（ Getting Started ）でバックアップ（ Backup ）を選択します
4. ワークロードが実行されている Azure を選択し、バックアップ対象の Azure ファイル共有を選択して、Backkup をクリックします
5. 共有の作成に使用するストレージアカウントを選択します
6. バックアップする共有を追加します
7. ニーズに合わせてバックアップポリシーを編集、作成できます



## 著作権情報

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. 米国で印刷されていますこのドキュメントは著作権によって保護されています。画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体などの機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。テープ媒体、または電子検索システムへの保管-著作権所有者の書面による事前承諾なし。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、いかなる場合でも、間接的、偶発的、特別、懲罰的、またはまたは結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の損失、データ、利益、またはこれらに限定されないものを含みますが、これらに限定されません。）ただし、契約、厳格責任、または本ソフトウェアの使用に起因する不法行為（過失やその他を含む）のいずれであっても、かかる損害の可能性について知らされていた場合でも、責任の理論に基づいて発生します。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、またはその他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1 つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許により特許、その他の国の特許、および出願中の特許。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7103（1988 年 10 月）および FAR 52-227-19（1987 年 6 月）の Rights in Technical Data and Computer Software（技術データおよびコンピュータソフトウェアに関する諸権利）条項の（c）（1）（ii）項、に規定された制限が適用されます。

## 商標情報

NetApp、NetAppのロゴ、に記載されているマーク <http://www.netapp.com/TM> は、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。